

イネいもち病菌の QoI 剤に対する耐性菌発生状況調査

平成 28 年 3 月
栃木県農業環境指導センター

(1) 目的

近年、西日本や東北地方ではいもち病での QoI (Quinone outside inhibitor) 剤耐性菌の発生が拡大している。栃木県でも QoI 剤は箱施用剤や無人ヘリなどで広く使用されており、種子生産現場でも使用されている。また、飼料用イネなど県外からの種子が多く供給される状況となっており、耐性菌の発生リスクは高まってきている。そこで、本剤の耐性菌の有無を明らかにするため、県内のいもち病について調査する。

(2) 材料および方法

① 供試菌株

県内 22 地点の発病株から、単孢子分離によって得られた 25 菌株

② 検定方法 (PCR-RFLP)

各菌株から早野ら(2015)に従い DNA を抽出し、宮川ら(2013)により耐性菌の有無を確認した。

(3) 結果および考察

PCR-RFLP による検定の結果、供試した 25 菌株はすべて感受性菌であった。

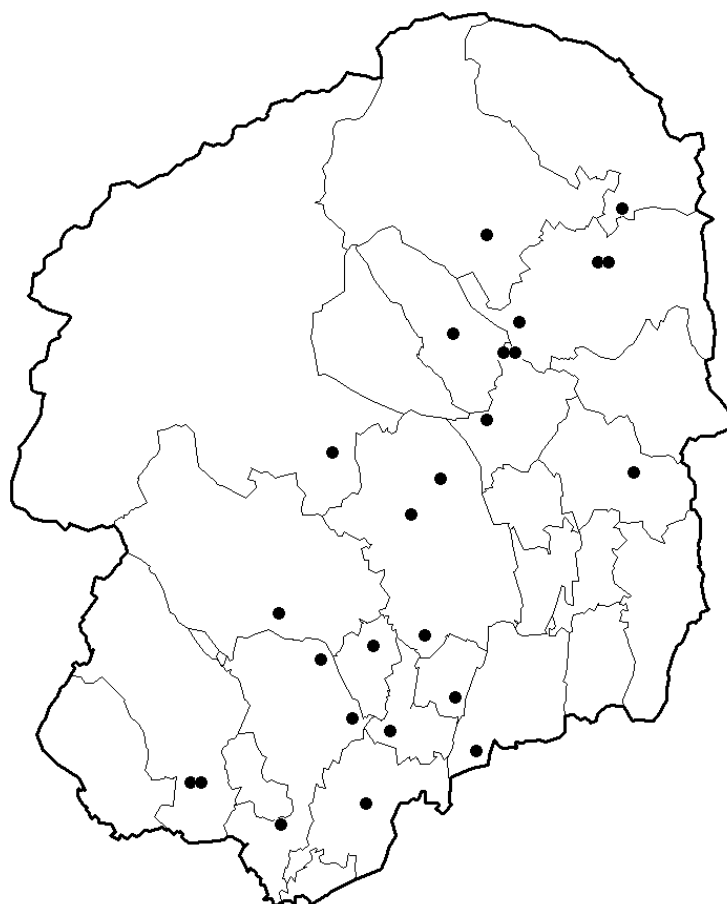


図 イネいもち病菌の採集地点